

【鳴門市行政評価】

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	環境学習推進事業		担当部署	市民環境部 環境局 環境政策課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市リサイクルプラザ環境学習館条例、鳴門市リサイクルプラザ環境学習館条例施行規則、鳴門市環境基本計画、なると環境プラン推進計画2012		
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり	事業 期間	開始	平成	20 年度
政策(中項目)	2	快適に暮らせるまち なると			終 期	未定
(小項目)		ごみ処理				
施策	6	自然と共生できる循環型社会づくりの推進				
基本事業	2	クリーンセンターの運営及びゴミ対策				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	ごみの減量やリサイクルの啓発事業や、環境学習に関する教室等開催することで環境問題への意識の高揚を図る。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	環境学習館の運営について、前年度の実施結果を分析し、多くの利用者の促進を図る。 環境学習に関する講座や施設内の見学を実施するとともに、フクロウと子どもたちの森について市民が利用しやすい環境づくりに努める。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		環境学習館利用者数	8,000	8,000	8,300	8,300	8,300	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	環境学習館において、環境学習に関する各種講座や施設内の見学を実施し、市民の環境に関する意識の普及啓発に努めた。 また、市民が利用しやすいフクロウと子どもたちの森の環境づくりに努めた。						
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他							
指標名		25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	クリーンセンター視察数	26	39	45	45	45	件
	2	イベント・講座実施数	41	70	40	40	40	件
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	環境学習館利用者数		7,424	7,887	—	—	—	人
	目標達成率(実績/目標)			98.6	—	—	—	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり		事業全体の進捗状況			-		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成26年度	当初予算額	0	0	0	205	206	411
		全体予算額	0	0	0	205	206	411
		決算額	0	0	0	63	178	241
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)		総人件費		総事業費	
			1.5		3,035		3,276	

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	340	241	410	410	410
	うち一般財源	191	178	205	400	400
	人件費	2,664	3,035	2,711	2,711	2,711
	総事業費	3,004	3,276	3,121	3,121	3,121

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		イベント・講座実施数を多くし、市民への参加を呼びかけた。環境学習館利用者数が増加した
	効率性	B:概ね効率的だった		専属嘱託職員での対応を基本として事業を実施することで効率的な運営が行えた。
②成果に対する評価	指標名	環境学習館利用者数		目標数値には届かなかったが、昨年よりは増加した。
	目標	8,000	人	
	実績	7,887	人	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		利用者数は増加したが、目標には達しなかった。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	平成26年度までは2名の嘱託員により、事業の実施を行ってきたが、平成27年度においては1名の嘱託員となっている。そのため、今後イベントや講座数を増やしていくことは難しく、また昨年までの講座数等を維持できるかが課題となる。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	過去におけるイベント・講座の中で参加者が多い物から実施し、新たな取り組みについて考察する。			
	H28年度	前年度事業について精査し、事業実施していく。			